

四 半 期 報 告 書

(第130期第3四半期)

株 式 会 社 八 十 二 銀 行

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	8
1 【株式等の状況】	8
2 【役員の状況】	9
第4 【経理の状況】	10
1 【四半期連結財務諸表】	11
2 【その他】	20
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	21

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年2月12日

【四半期会計期間】 第130期第3四半期(自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)

【会社名】 株式会社 八十二銀行

【英訳名】 The Hachijuni Bank, Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役頭取 山 浦 愛 幸

【本店の所在の場所】 長野市大字中御所字岡田178番地8

【電話番号】 長野(026)227局1182

【事務連絡者氏名】 企画部長 佐 藤 裕 一

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋室町四丁目1番22号
株式会社八十二銀行 東京事務所

【電話番号】 東京(03)3246局4822

【事務連絡者氏名】 東京事務所長 樋 代 章 平

【縦覧に供する場所】 株式会社八十二銀行 東京営業部

(東京都中央区日本橋室町四丁目1番22号)

株式会社 東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		平成23年度 第3四半期 連結累計期間	平成24年度 第3四半期 連結累計期間	平成23年度
		(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
経常収益	百万円	127,990	124,334	163,780
うち信託報酬	百万円	2	2	3
経常利益	百万円	35,528	30,451	35,237
四半期純利益	百万円	16,996	16,456	—
当期純利益	百万円	—	—	17,359
四半期包括利益	百万円	8,309	29,760	—
包括利益	百万円	—	—	31,689
純資産額	百万円	469,282	516,608	492,643
総資産額	百万円	6,536,190	6,902,264	6,601,264
1株当たり四半期純利益金額	円	33.25	32.36	—
1株当たり当期純利益金額	円	—	—	33.96
潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益金額	円	33.23	32.33	—
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	円	—	—	33.94
自己資本比率	%	6.86	7.14	7.13
信託財産額	百万円	562	532	558

		平成23年度 第3四半期連結会計期間	平成24年度 第3四半期連結会計期間
		(自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)	(自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	円	6.60	13.76

- (注) 1 当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
- 2 第3四半期連結累計期間に係る1株当たり情報の算定上の基礎は、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。
- 3 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計－(四半期)期末新株予約権－(四半期)期末少数株主持分)を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出しております。
- 4 信託財産額は、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務に係るものを記載しております。なお、該当する信託業務を営む会社は提出会社1社です。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当行及び連結子会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等はありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

該当ありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

(金融経済環境)

当第3四半期連結累計期間における当行の主要な営業基盤である長野県経済は、欧州債務問題による世界経済の減速や日中関係の悪化及び円高などの影響を受け、製造業を中心に足踏み状態が続き、景気は厳しい状況が続きました。

金融面においては、10年物国債利回りは、期初の1.0%台から一時0.6%台後半へと低下し、その後も低位で推移しました。一方、日経平均株価は期初1万1百円台でスタートし、8千円台前半まで下落しましたが、期末には1万3百円台後半まで回復しました。

このような金融経済環境のもと当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

(財政状態)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末比3,009億円増加して6兆9,022億円となりました。負債につきましては、前連結会計年度末比2,770億円増加して6兆3,856億円となりました。また、純資産は、前連結会計年度末比239億円増加して5,166億円となりました。

主要勘定の動きは、次のとおりとなりました。

貸出金は、住宅ローン及び地方公共団体向け資金が増加したことなどを主因に、前連結会計年度末比876億円増加して4兆2,681億円となりました。

有価証券は、国債を中心に、前連結会計年度末比1,234億円増加して2兆1,222億円となりました。

預金は、個人及び法人の預金を引き続き堅調に推移し、前連結会計年度末比502億円増加して5兆7,070億円となりました。

(経営成績)

連結粗利益の大半を占める資金利益は、利回り低下による貸出金利息の減少を主因に前年同期比6億2千1百万円減少し、611億7千万円となりました。役務取引等利益（含む信託報酬）は、前年同期比1億3千2百万円減少し、110億1百万円となりました。その他業務利益は、国債等債券関係損益が増加したことを主因に前年同期比4億9千万円増加し、97億6千9百万円となりました。

与信関係費用は、貸倒引当金戻入益が減少したことを主因に前年同期比40億7千3百万円増加し、6億8千7百万円となりました。

以上の結果、経常利益は前年同期比50億7千7百万円減少の304億5千1百万円、四半期純利益は同5億4千万円減少の164億5千6百万円となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

① 銀行業

当行単体の減益を主因として、セグメント利益（経常利益）は前年同期比49億6千9百万円減少して、274億6千4百万円となりました。

② リース業

セグメント利益（経常利益）は前年同期比 2 億 2 千 5 百万円減少して、29 億 6 千 3 百万円となりました。

なお、報告セグメントに含まれない「その他」につきましては、前年同期比 4 億 1 千 5 百万円増加して、2 千 3 百万円のセグメント利益（経常利益）となりました。

○ 損益の概要

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年12月31日) (百万円) (A)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年12月31日) (百万円) (B)	増減 (百万円) (B) - (A)
連結粗利益	82,532	82,600	67
資金利益	61,792	61,170	△621
役員取引等利益(含む信託報酬)	11,134	11,001	△132
特定取引利益	327	659	331
その他業務利益	9,278	9,769	490
営業経費	50,225	49,462	△762
与信関係費用	△3,386	687	4,073
貸出金償却	12	14	1
個別貸倒引当金繰入額	—	—	—
一般貸倒引当金繰入額	—	—	—
貸倒引当金戻入益	3,255	33	△3,222
償却債権取立益	441	34	△406
その他与信関係費用	297	741	443
株式等関係損益	△883	△2,004	△1,120
その他	735	34	△701
経常利益	35,528	30,451	△5,077
特別損益	△175	△531	△355
税金等調整前四半期純利益	35,352	29,919	△5,433
法人税、住民税及び事業税	12,734	10,286	△2,447
法人税等調整額	3,350	1,387	△1,962
法人税等合計	16,084	11,673	△4,410
少数株主利益	2,271	1,789	△482
四半期純利益	16,996	16,456	△540

(注) 前第 3 四半期連結累計期間及び当第 3 四半期連結累計期間とも、一般貸倒引当金の取崩額が個別貸倒引当金の繰入額を上回り貸倒引当金全体で取崩となりましたので、経理基準に従い、その合計額を貸倒引当金戻入益に計上しております。

① 国内・海外別収支

資金運用収支は、国内の利回り低下による貸出金利息の減少を主因に前年同期比621百万円減少し、61,170百万円となりました。

役務取引等収支は、前年同期比132百万円減少し、10,999百万円となりました。

その他業務収支は、前年同期比490百万円増加し、9,769百万円となりました。

種類	期別	国内	海外	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第3四半期連結累計期間	61,623	168	—	61,792
	当第3四半期連結累計期間	60,969	200	—	61,170
うち資金運用収益	前第3四半期連結累計期間	67,966	206	△26	68,145
	当第3四半期連結累計期間	66,927	272	△50	67,149
うち資金調達費用	前第3四半期連結累計期間	6,342	37	△26	6,353
	当第3四半期連結累計期間	5,958	72	△50	5,979
信託報酬	前第3四半期連結累計期間	2	—	—	2
	当第3四半期連結累計期間	2	—	—	2
役務取引等収支	前第3四半期連結累計期間	11,126	5	—	11,131
	当第3四半期連結累計期間	10,995	3	—	10,999
うち役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	15,319	12	—	15,331
	当第3四半期連結累計期間	15,353	11	—	15,365
うち役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	4,192	6	—	4,199
	当第3四半期連結累計期間	4,358	7	—	4,366
特定取引収支	前第3四半期連結累計期間	327	—	—	327
	当第3四半期連結累計期間	659	—	—	659
うち特定取引収益	前第3四半期連結累計期間	327	—	—	327
	当第3四半期連結累計期間	659	—	—	659
うち特定取引費用	前第3四半期連結累計期間	—	—	—	—
	当第3四半期連結累計期間	—	—	—	—
その他業務収支	前第3四半期連結累計期間	9,241	37	△0	9,278
	当第3四半期連結累計期間	9,745	23	—	9,769
うちその他業務収益	前第3四半期連結累計期間	35,348	37	△0	35,385
	当第3四半期連結累計期間	34,787	24	—	34,812
うちその他業務費用	前第3四半期連結累計期間	26,106	0	—	26,106
	当第3四半期連結累計期間	25,042	0	—	25,042

(注) 1 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び国内に本店を有する連結子会社(以下「国内連結子会社」という。)であります。

「海外」とは、当行の海外店及び海外に本店を有する連結子会社(以下「海外連結子会社」という。)であります。

2 資金調達費用は金銭の信託見合費用(前第3四半期連結累計期間18百万円、当第3四半期連結累計期間29百万円)を控除して表示しております。

3 相殺消去額は、「国内」と「海外」の間の内部取引額を記載しております。

② 国内・海外別預金残高の状況

○ 預金の種類別残高(末残)

種類	期別	国内	海外	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第3四半期連結会計期間	5,624,207	7,717	—	5,631,925
	当第3四半期連結会計期間	5,690,866	16,177	—	5,707,043
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	2,952,605	4,118	—	2,956,724
	当第3四半期連結会計期間	3,039,132	6,191	—	3,045,323
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	2,459,288	3,599	—	2,462,887
	当第3四半期連結会計期間	2,497,589	9,986	—	2,507,575
うちその他	前第3四半期連結会計期間	212,313	0	—	212,313
	当第3四半期連結会計期間	154,144	0	—	154,144
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	39,208	—	—	39,208
	当第3四半期連結会計期間	135,819	—	—	135,819
総合計	前第3四半期連結会計期間	5,663,416	7,717	—	5,671,134
	当第3四半期連結会計期間	5,826,685	16,177	—	5,842,862

(注) 1 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金

2 定期性預金＝定期預金＋定期積金

3 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。

「海外」とは、当行の海外店及び海外連結子会社であります。

③ 国内・海外別貸出金残高の状況

○ 業種別貸出状況(末残構成比)

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内 (除く特別国際金融取引勘定分)	4,177,190	100.00	4,255,657	100.00
製造業	813,611	19.48	775,622	18.23
農業、林業	14,947	0.36	13,346	0.31
漁業	7,414	0.18	6,334	0.15
鉱業、採石業、砂利採取業	2,146	0.05	2,161	0.05
建設業	125,827	3.01	114,440	2.69
電気・ガス・熱供給・水道業	40,958	0.98	47,759	1.12
情報通信業	45,465	1.09	46,558	1.09
運輸業、郵便業	129,868	3.11	131,815	3.10
卸売業、小売業	574,785	13.76	591,849	13.91
金融業、保険業	284,177	6.80	316,873	7.45
不動産業、物品賃貸業	499,512	11.96	497,483	11.69
その他サービス業	329,154	7.88	301,811	7.09
地方公共団体	365,613	8.75	408,016	9.59
その他	943,707	22.59	1,001,586	23.53
海外及び特別国際金融取引勘定分	6,120	100.00	12,490	100.00
政府等	—	—	—	—
金融機関	982	16.05	861	6.90
その他	5,138	83.95	11,628	93.10
合計	4,183,311	—	4,268,148	—

(注) 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。

「海外」とは、当行の海外店及び海外連結子会社であります。

④「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務の状況

「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づき信託業務を営む会社は提出会社1社です。

○ 信託財産の運用／受入状況(信託財産残高表)

資産				
科目	前連結会計年度 (平成24年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
有価証券	303	54.33	303	56.97
信託受益権	214	38.35	208	39.23
現金預け金	40	7.32	20	3.80
合計	558	100.00	532	100.00

負債				
科目	前連結会計年度 (平成24年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
金銭信託	558	100.00	532	100.00
合計	558	100.00	532	100.00

- (注) 1 共同信託他社管理財産については、取扱残高はありません。
2 元本補填契約のある信託については、取扱残高はありません。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題、研究開発活動

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

研究開発活動については該当ありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,000,000,000
計	2,000,000,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	521,103,411	同左	東京証券取引所 市場第一部	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式 単元株式数は1,000株であります。
計	521,103,411	同左	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年12月31日	—	521,103	—	52,243	—	29,609

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 14,912,000	—	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 502,952,000	502,952	同上
単元未満株式	普通株式 3,239,411	—	同上
発行済株式総数	521,103,411	—	—
総株主の議決権	—	502,952	—

(注) 上記の「完全議決権株式(その他)」の「株式数」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が6千株含まれております。また、「議決権の数」の欄に、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数が6個含まれております。

② 【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社八十二銀行	長野市大字中御所字岡田 178番地8	14,912,000	—	14,912,000	2.86
計	—	14,912,000	—	14,912,000	2.86

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

- 1 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。
- 2 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（自平成24年10月1日 至平成24年12月31日）及び第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
現金預け金	140,780	196,487
買入金銭債権	54,624	50,605
特定取引資産	26,842	41,489
金銭の信託	21,359	30,558
有価証券	1,998,865	2,122,295
貸出金	※1 4,180,520	※1 4,268,148
外国為替	39,028	22,204
リース債権及びリース投資資産	58,405	56,518
その他資産	78,706	106,099
有形固定資産	35,167	35,424
無形固定資産	4,906	4,669
繰延税金資産	2,826	2,930
支払承諾見返	45,494	43,611
貸倒引当金	△86,031	△78,776
投資損失引当金	△230	△0
資産の部合計	6,601,264	6,902,264
負債の部		
預金	5,656,838	5,707,043
譲渡性預金	68,251	135,819
コールマネー及び売渡手形	55,221	85,077
債券貸借取引受入担保金	44,914	88,954
特定取引負債	8,172	6,948
借入金	93,958	167,515
外国為替	2,518	1,499
その他負債	107,366	115,202
退職給付引当金	15,021	15,128
睡眠預金払戻損失引当金	561	528
偶発損失引当金	789	1,141
特別法上の引当金	8	6
繰延税金負債	9,504	17,178
支払承諾	45,494	43,611
負債の部合計	6,108,621	6,385,656

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
資本金	52,243	52,243
資本剰余金	29,674	29,674
利益剰余金	328,316	340,956
自己株式	△5,199	△7,204
株主資本合計	405,034	415,668
その他有価証券評価差額金	73,202	84,995
繰延ヘッジ損益	△5,916	△6,155
為替換算調整勘定	△1,016	△1,020
その他の包括利益累計額合計	66,269	77,819
新株予約権	144	188
少数株主持分	21,195	22,931
純資産の部合計	492,643	516,608
負債及び純資産の部合計	6,601,264	6,902,264

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
経常収益	127,990	124,334
資金運用収益	68,145	67,149
(うち貸出金利息)	48,412	46,232
(うち有価証券利息配当金)	18,833	20,284
信託報酬	2	2
役務取引等収益	15,331	15,365
特定取引収益	327	659
その他業務収益	35,385	34,812
その他経常収益	※1 8,797	※1 6,346
経常費用	92,462	93,883
資金調達費用	6,371	6,008
(うち預金利息)	2,976	2,058
役務取引等費用	4,199	4,366
その他業務費用	26,106	25,042
営業経費	50,225	49,462
その他経常費用	※2 5,559	※2 9,003
経常利益	35,528	30,451
特別利益	40	2
固定資産処分益	40	1
金融商品取引責任準備金取崩額	0	1
特別損失	216	534
固定資産処分損	142	48
減損損失	74	485
税金等調整前四半期純利益	35,352	29,919
法人税、住民税及び事業税	12,734	10,286
法人税等調整額	3,350	1,387
法人税等合計	16,084	11,673
少数株主損益調整前四半期純利益	19,267	18,245
少数株主利益	2,271	1,789
四半期純利益	16,996	16,456

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	19,267	18,245
その他の包括利益	△10,958	11,514
その他有価証券評価差額金	△2,294	11,757
繰延ヘッジ損益	△8,554	△239
為替換算調整勘定	△109	△3
四半期包括利益	8,309	29,760
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,118	28,006
少数株主に係る四半期包括利益	2,191	1,754

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当行及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産(当行の建物及びリース資産を除く)については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 なお、当第3四半期連結累計期間の経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
破綻先債権額	12,215百万円	10,783百万円
延滞債権額	116,483百万円	114,911百万円
3ヵ月以上延滞債権額	417百万円	432百万円
貸出条件緩和債権額	34,334百万円	31,458百万円
合計額	163,450百万円	157,586百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
金銭の信託運用益	2,060百万円	3,263百万円
償却債権取立益	441百万円	34百万円
貸倒引当金戻入益	3,255百万円	33百万円

※2 その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
金銭の信託運用損	2,569百万円	4,423百万円
株式等償却	465百万円	2,142百万円
株式等売却損	942百万円	801百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
減価償却費	4,148百万円	4,117百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	2,554	5.00	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金
平成23年11月11日 取締役会	普通株式	1,533	3.00	平成23年9月30日	平成23年12月9日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	2,044	4.00	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金
平成24年11月9日 取締役会	普通株式	1,771	3.50	平成24年9月30日	平成24年12月10日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	97,265	29,782	127,047	943	127,990	—	127,990
セグメント間の内部経常収益	605	500	1,106	36	1,143	△1,143	—
計	97,870	30,282	128,153	979	129,133	△1,143	127,990
セグメント利益(△は損失)	32,434	3,189	35,623	△392	35,231	296	35,528

(注)1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、証券業及びベンチャーキャピタル業を含んでおります。

3 セグメント利益の調整額296百万円は、セグメント間取引消去であります。

4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）
報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	96,390	26,412	122,803	1,531	124,334	—	124,334
セグメント間の内部経常収益	550	559	1,109	33	1,143	△1,143	—
計	96,941	26,971	123,913	1,564	125,477	△1,143	124,334
セグメント利益	27,464	2,963	30,428	23	30,451	△0	30,451

（注）1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、証券業及びベンチャーキャピタル業を含んでおります。

3 セグメント利益の調整額△0百万円は、セグメント間取引消去であります。

4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

（金融商品関係）

企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。

前連結会計年度（平成24年3月31日）

科目	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時 価 （百万円）	差 額 （百万円）
貸出金	4,180,520		
貸倒引当金（*）	△76,241		
	4,104,278	4,162,423	58,145

（*）貸出金に対応する一般貸倒引当金（31,303百万円）及び個別貸倒引当金（44,937百万円）を控除しております。

当第3四半期連結会計期間（平成24年12月31日）

科目	四半期連結貸借対照表計上額 （百万円）	時 価 （百万円）	差 額 （百万円）
貸出金	4,268,148		
貸倒引当金（*）	△69,266		
	4,198,881	4,257,650	58,768

（*）貸出金に対応する一般貸倒引当金（28,462百万円）及び個別貸倒引当金（40,804百万円）を控除しております。

（注）貸出金の時価の算定方法

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるもので事業性貸出金は、貸出金の種類、内部格付及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を市場金利に内部格付等に応じたスプレッドを加味した利率で割り引いて時価を算定しております。固定金利によるもので非事業性貸出金は、商品別、期間ごとに元利金の合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される適用利率で割り引いて時価を算定しております。なお、約定期間が短期間（1年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び現在は経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見込高を算定しているため、時価は四半期連結決算日（連結決算日）における四半期連結貸借対照表（連結貸借対照表）上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似していることから、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

(有価証券関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。

その他有価証券

前連結会計年度 (平成24年 3月31日)

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	106,110	186,517	80,407
債券	1,428,074	1,460,607	32,532
国債	1,078,909	1,106,655	27,745
地方債	82,720	85,803	3,083
短期社債	499	499	0
社債	265,945	267,648	1,702
その他	327,074	327,299	225
うち外国証券	297,833	300,494	2,660
合計	1,861,260	1,974,424	113,164

当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	98,715	186,649	87,934
債券	1,505,172	1,544,078	38,905
国債	1,174,336	1,206,667	32,331
地方債	82,482	85,949	3,466
短期社債	499	499	△0
社債	247,853	250,961	3,108
その他	363,661	368,056	4,395
うち外国証券	332,089	337,662	5,573
合計	1,967,548	2,098,783	131,234

(注) 売買目的有価証券以外の有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)とするとともに、評価差額を当第3四半期連結累計期間(連結会計年度)の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

前連結会計年度における減損処理額は、82百万円(うち、株式82百万円)であります。

当第3四半期連結累計期間における減損処理額は、2,065百万円(うち、株式2,065百万円)であります。

なお、四半期連結決算日(連結決算日)における時価が帳簿価額に対し50%以上下落している銘柄すべてを減損処理しております。下落率が30%以上50%未満の場合は、四半期連結決算日(連結決算日)前6カ月間に一度も時価が帳簿価額を上回っていない銘柄について減損処理しております。

(デリバティブ取引関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。

金利関連取引

前連結会計年度（平成24年3月31日）

区分	種類	契約額等（百万円）	時価（百万円）	評価損益（百万円）
金融商品取引所	金利先物	49,099	△0	△0

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号）等に基づきヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

当第3四半期連結会計期間（平成24年12月31日）

区分	種類	契約額等（百万円）	時価（百万円）	評価損益（百万円）
金融商品取引所	金利先物	85,047	1	1

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号）等に基づきヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	円	33.25	32.36
(算定上の基礎)			
四半期純利益	百万円	16,996	16,456
普通株主に帰属しない金額	百万円	—	—
普通株式に係る四半期純利益	百万円	16,996	16,456
普通株式の期中平均株式数	千株	511,062	508,477
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	円	33.23	32.33
(算定上の基礎)			
四半期純利益調整額	百万円	—	—
普通株式増加数	千株	332	430
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

中間配当

平成24年11月9日開催の取締役会において、第130期の中間配当につき次のとおり決議しました。

中間配当金額	1,771百万円
1株当たりの中間配当金	3.50円

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月5日

株式会社八十二銀行

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 手塚 仙夫 ⑩

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 五十幡 理一郎 ⑩

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 杉田 昌則 ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社八十二銀行の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国にお

いて一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社八十二銀行及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- ※ 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
 - ※ 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年2月12日
【会社名】	株式会社 八十二銀行
【英訳名】	The Hachijuni Bank, Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役頭取 山 浦 愛 幸
【最高財務責任者の役職氏名】	—
【本店の所在の場所】	長野市大字中御所字岡田178番地8
【縦覧に供する場所】	株式会社八十二銀行 東京営業部 (東京都中央区日本橋室町四丁目1番22号) 株式会社 東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当行取締役頭取 山浦愛幸は、当行の第130期第3四半期(自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。